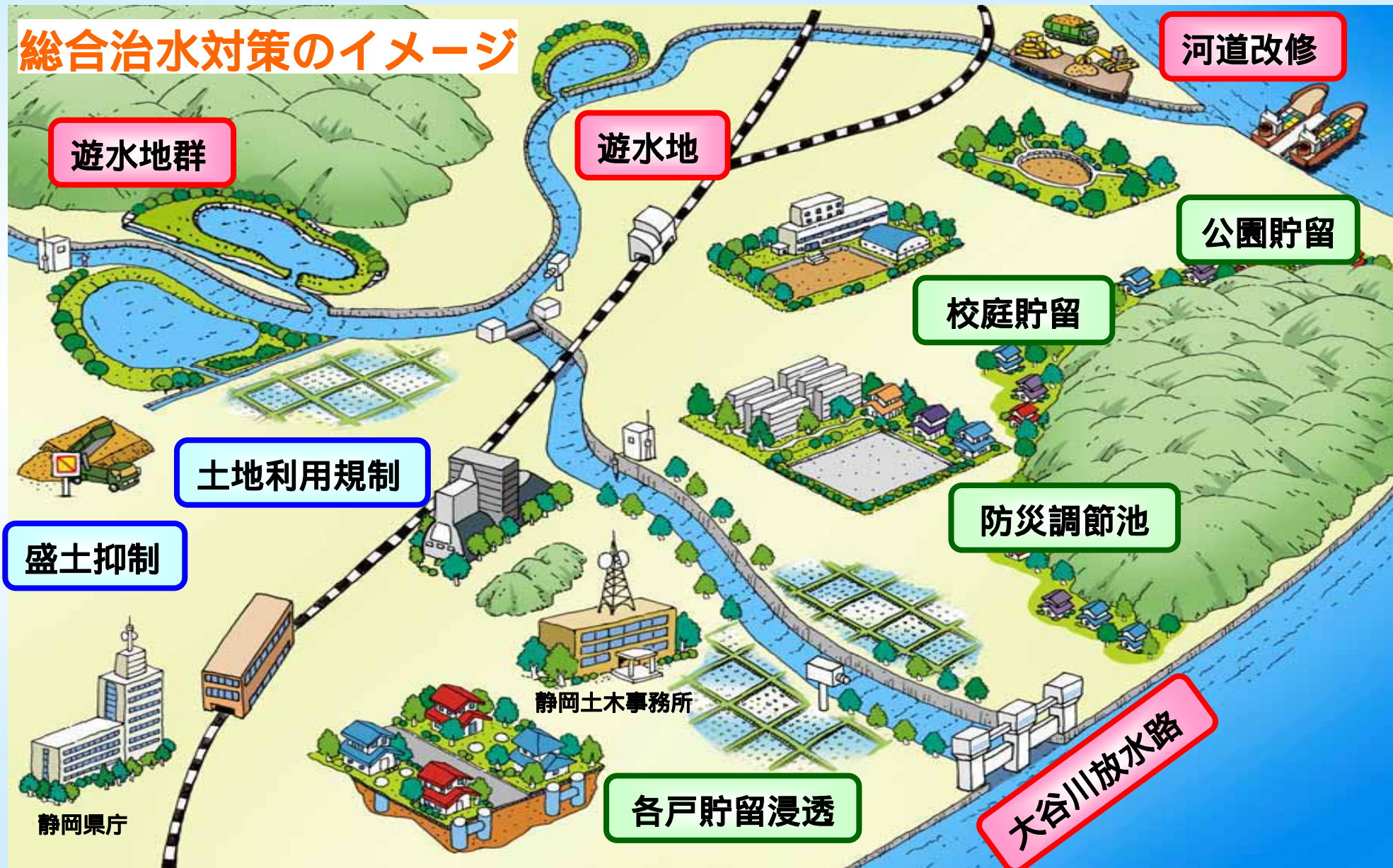
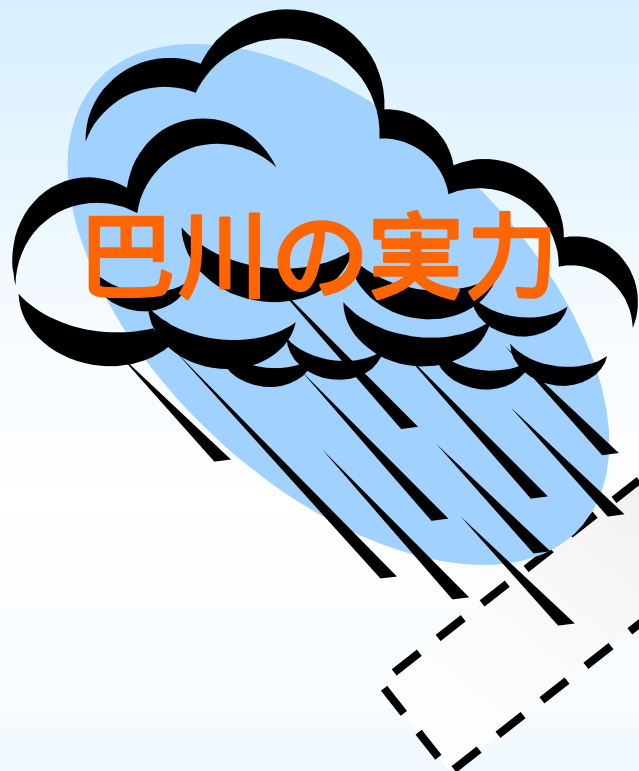


総合治水対策を段階的に実施しています。



総合治水対策を段階的に実施しています。



時間 3 0 mm



河川改修前

時間 5 8 mm



流域整備計画

時間 6 9 mm



新流域整備計画



洪水を防御する「治水施設の整備」は、巴川の本川狭小部の改修。大谷川放水路の建設。麻機遊水地、大内遊水地の整備など、抜本的な河川改修を段階的に実施しています。

巴川本川狭さく部の河道改修



稚児橋（河口より約2.7km）

放水路全景

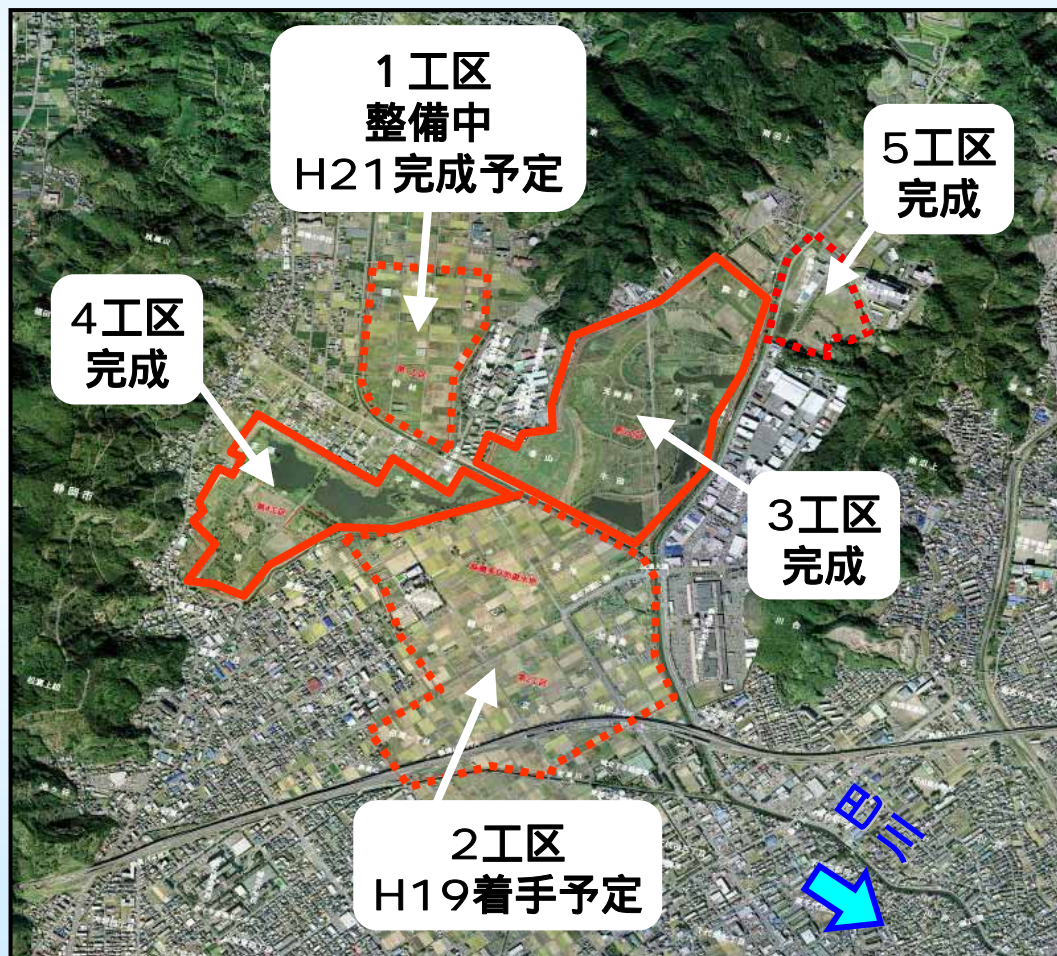


底張工（駿河区池田）



「治水施設の整備」のうち、遊水地については、麻機遊水地、大内遊水地の整備を段階的に行っています。

麻機遊水地



大内遊水地





支川のうち、大沢川、継川など、流下能力が不足している区間は、河川改修を段階的に実施しています。

継川

大沢川

瀬名川南公園～旧北街道まで 改修済



住宅地が連担する継川の状況  
瀬名川5号橋（葵区瀬名川一丁目）

巴川合流点～JR橋梁まで 改修済



住宅地が連担する大沢川の状況  
くぬぎ 櫛橋（清水区西大曲）

洪水を防御する「流出抑制対策」として、流域内の公共施設を利用した雨水貯留施設、既設の調節池を活用して、これまでに167カ所の整備が行われました。

校庭貯留施設の状況（清水浜田小学校）

降雨後



平常時



各戸貯留施設



清水区岡町

ため池雨水貯留施設

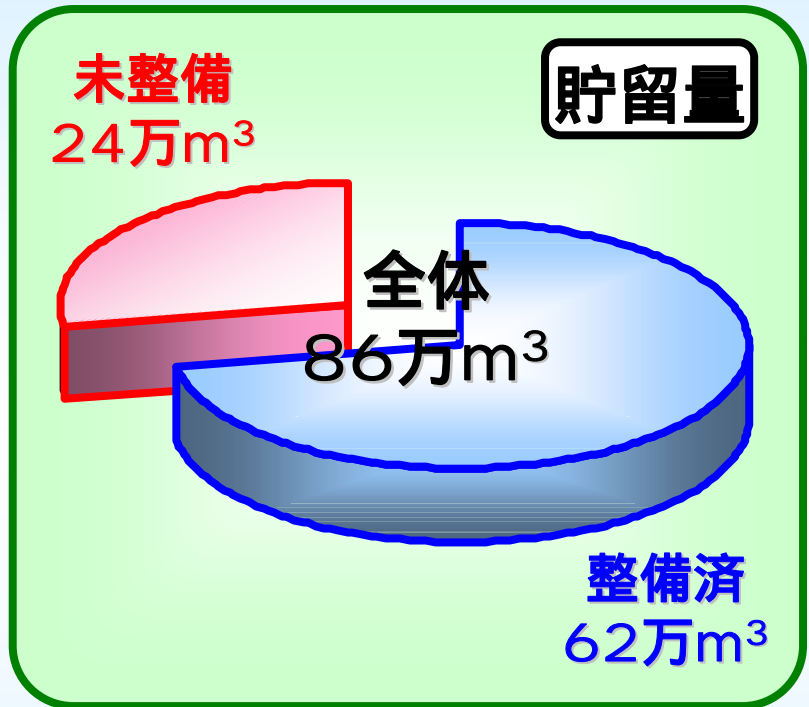
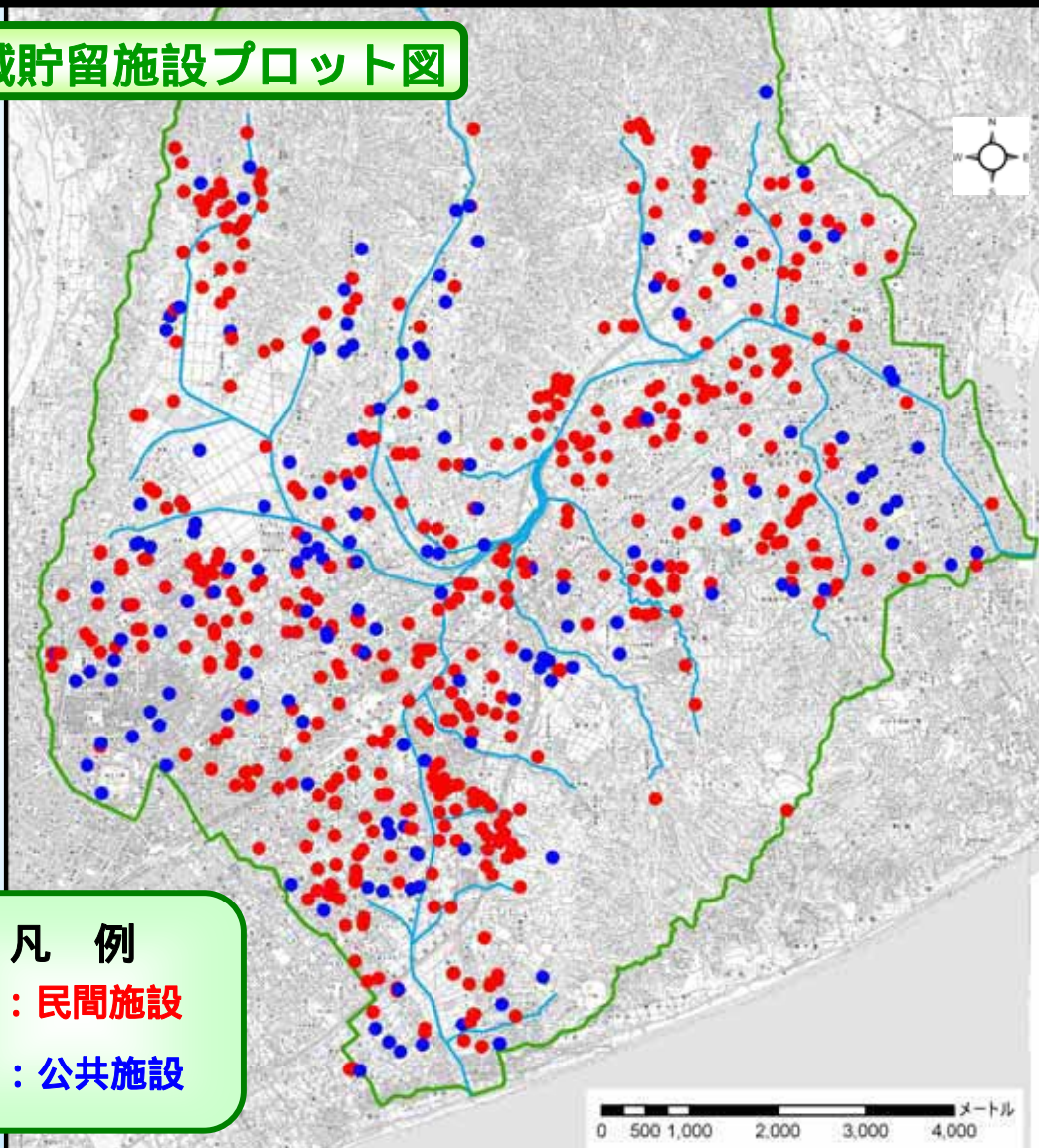


葵区胸形神社



巴川水系流域内の雨水貯留施設には、約62万 $m^3$ の雨水を貯留することが出来ます。

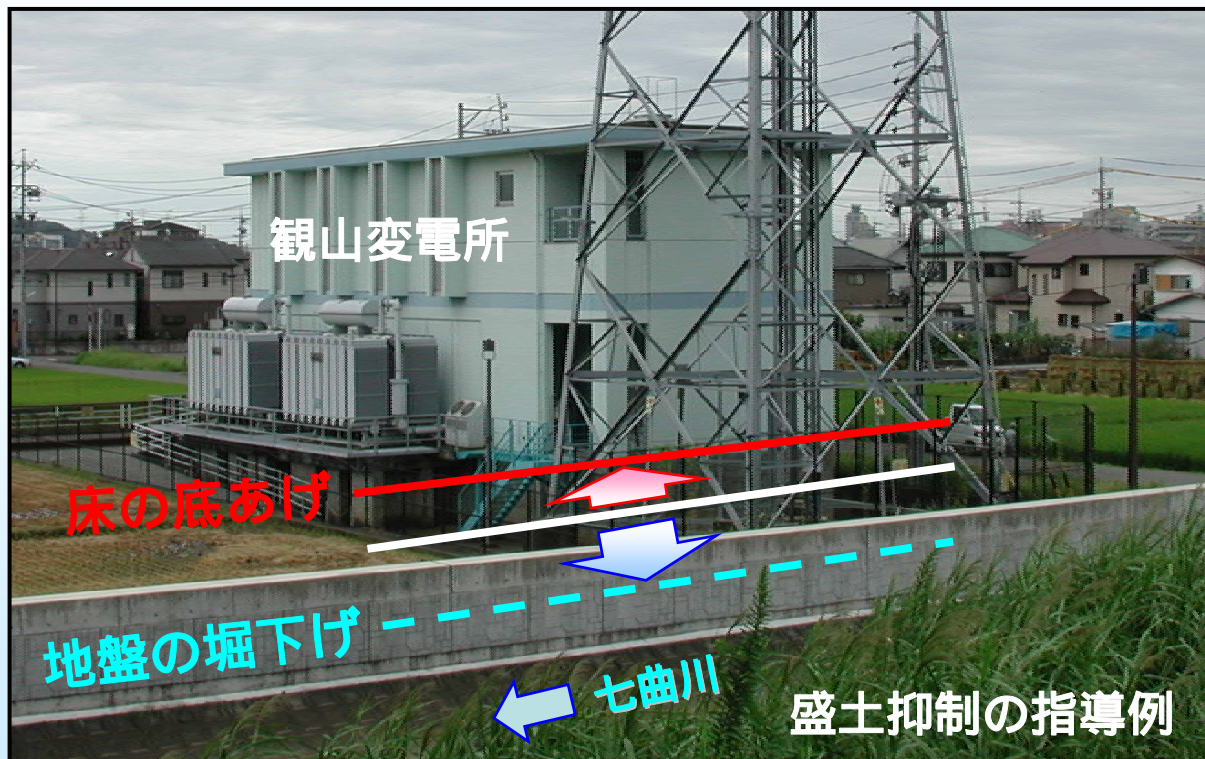
流域貯留施設プロット図



整備率 : 74%

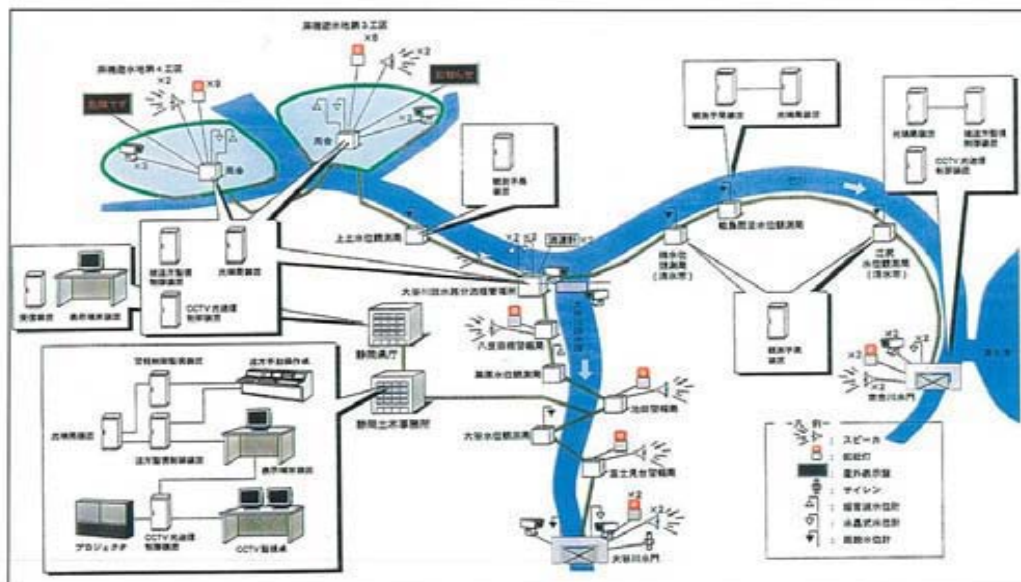
ソフト対策として「氾濫源管理」のために、県・市で構成される「流域総合治水対策協議会」により、適正な土地の利用について取り組んでいます。

新たな土地の改変にあたって、流域が従来から持つ遊水機能を保全するため、盛土抑制による指導を行っています。



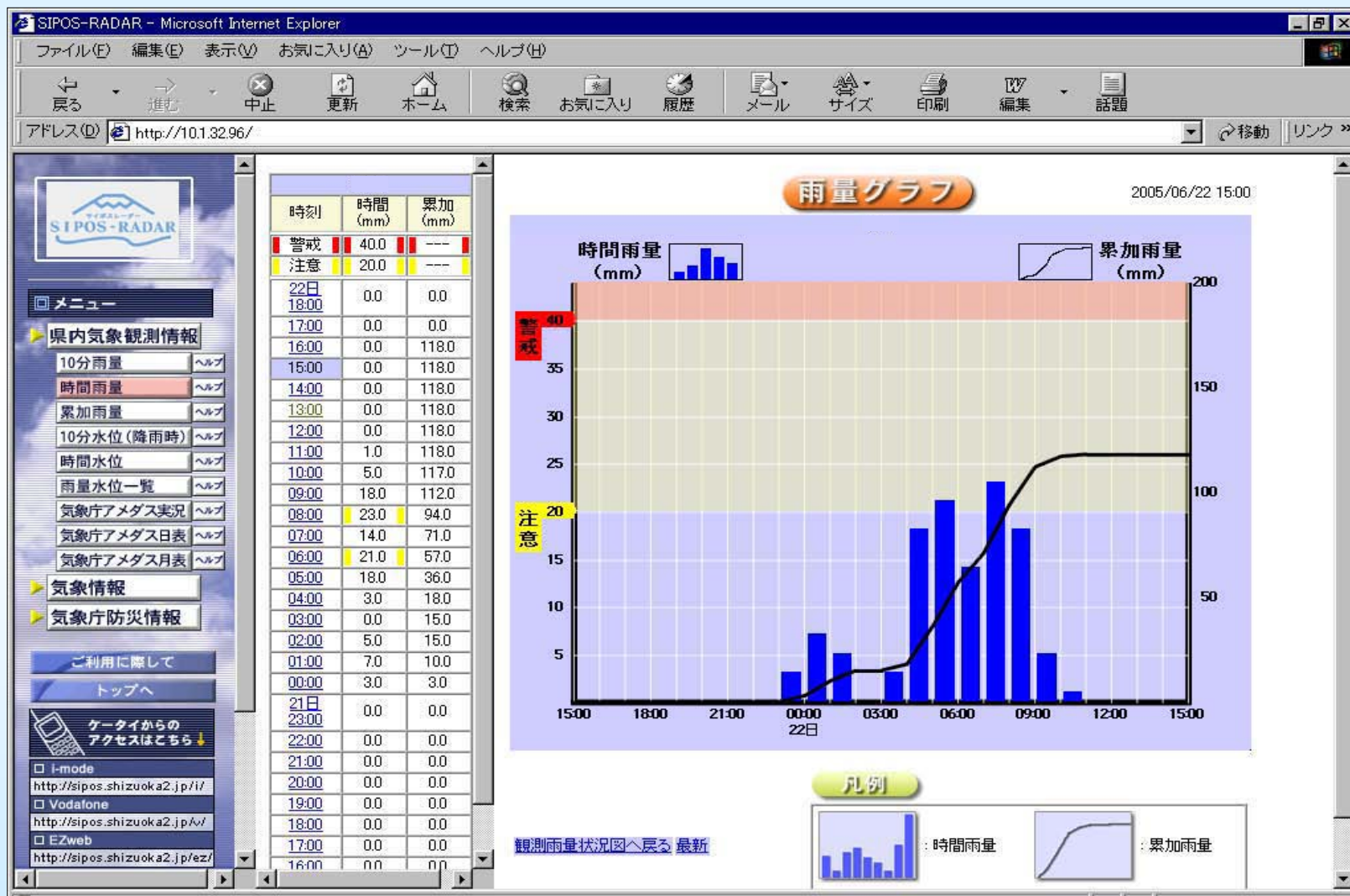


ソフト対策として「警戒避難体制の強化」のために、降雨の状況や洪水時の河川の状況をリアルタイムに観測し、洪水防御対策や減災に努めています。



巴川情報管理システム

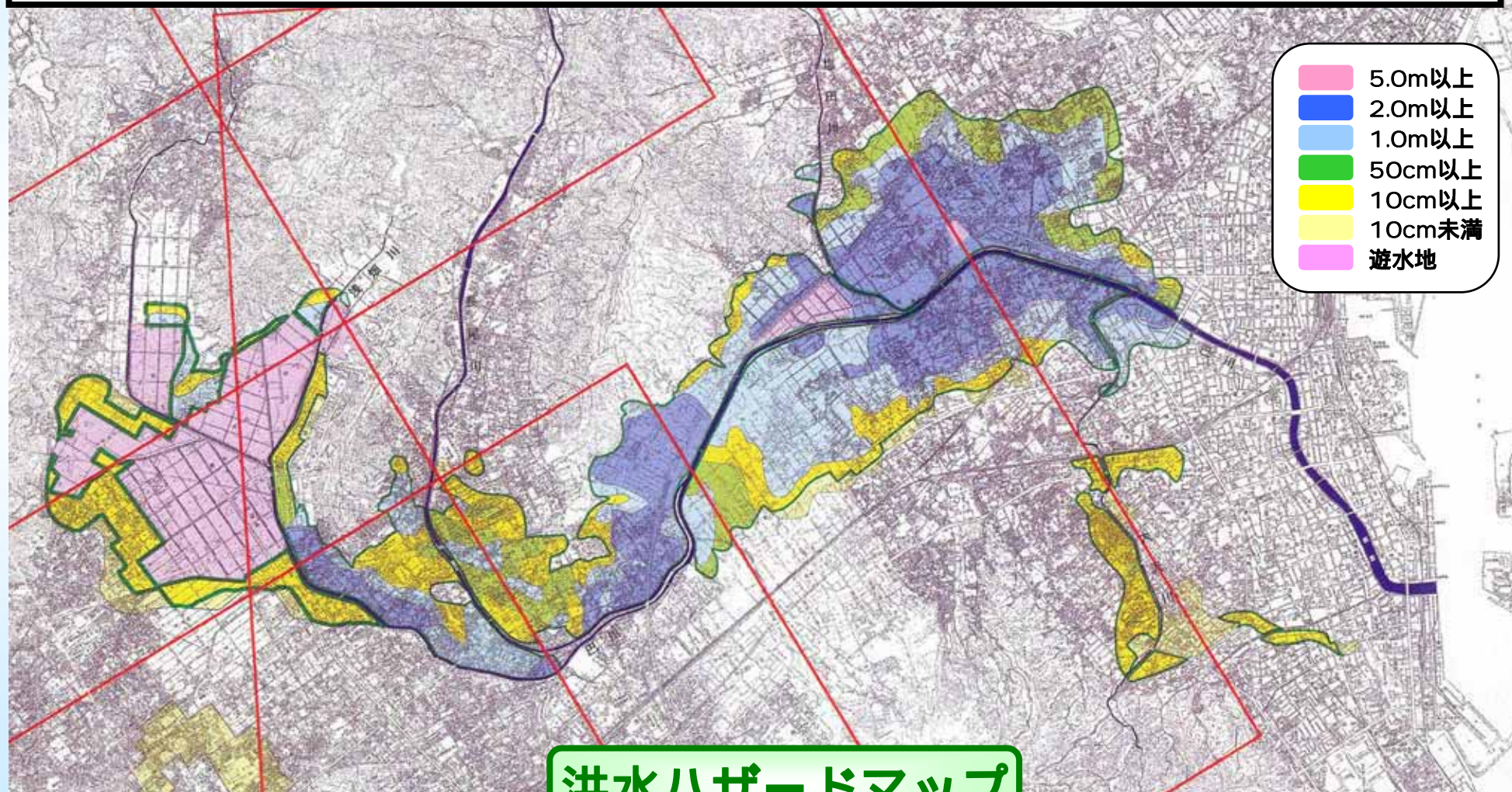
観測した雨量や河川の状況は、自治体や住民への雨量・防災情報として提供し、地域防災の強化に努めています。



サイポスレーダーHP表示例



住民の方々が、洪水時に安全に避難できるよう、浸水の予想される区域と想定される浸水深を示した「洪水ハザードマップ」(静岡市提供)などの防災情報の提供を図っています。



洪水ハザードマップ

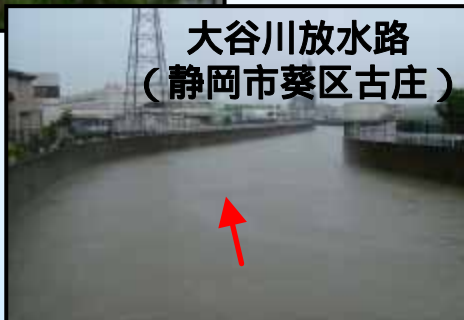


洪水に対処するため、堤防や水門などの河川施設や河川監視システムの日常の保守点検・修繕など適切な維持管理が不可欠です。



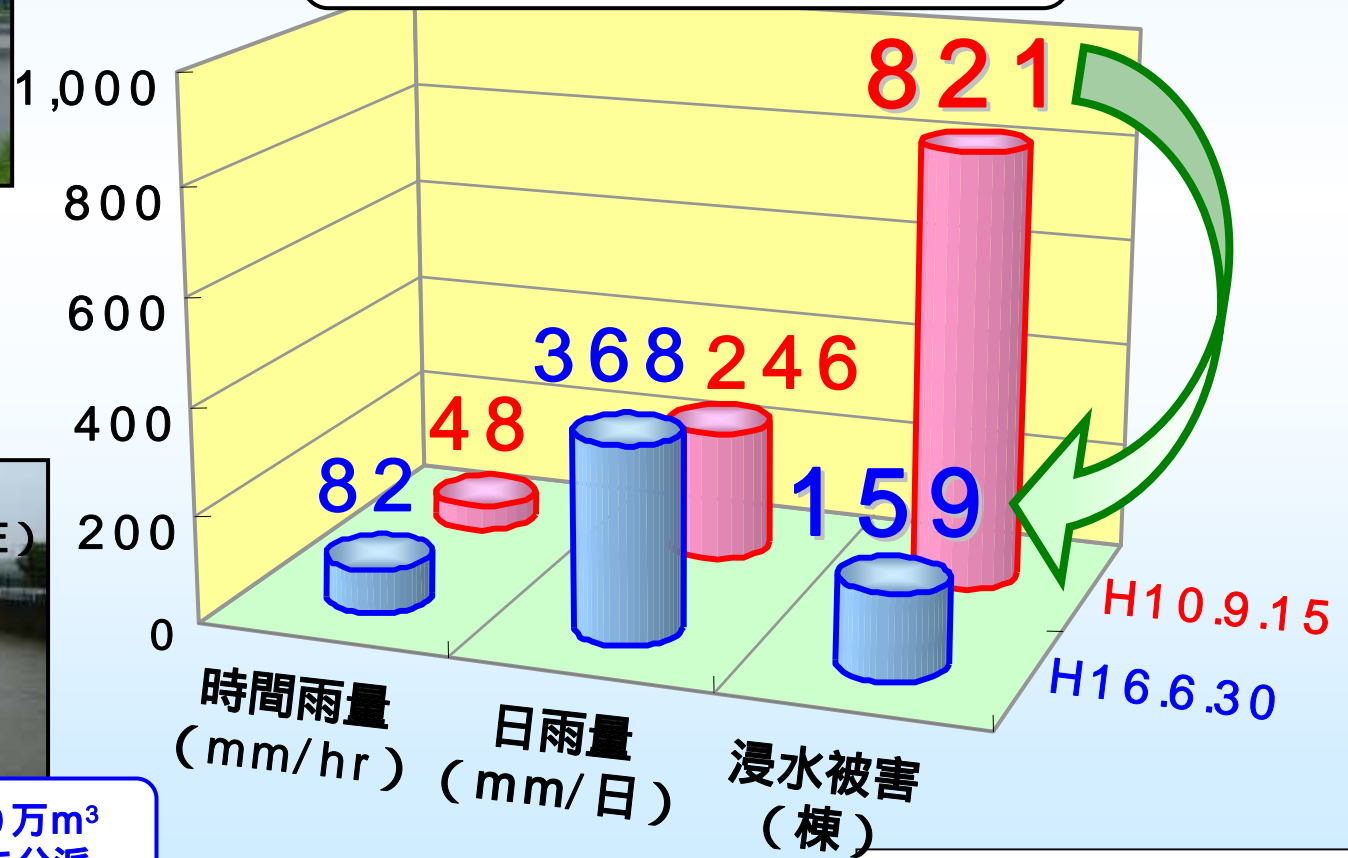


平成16年には1/5年規模の暫定計画が完了し、放水路・遊水地第3,4工区が供用され、平成16年6月30日の洪水では事業効果を発揮しました。



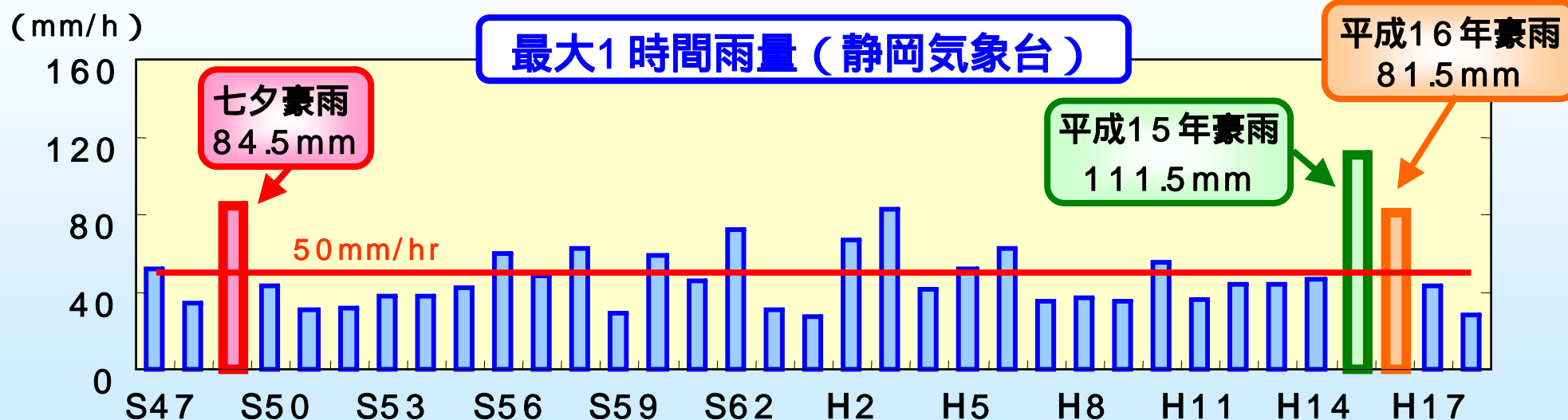
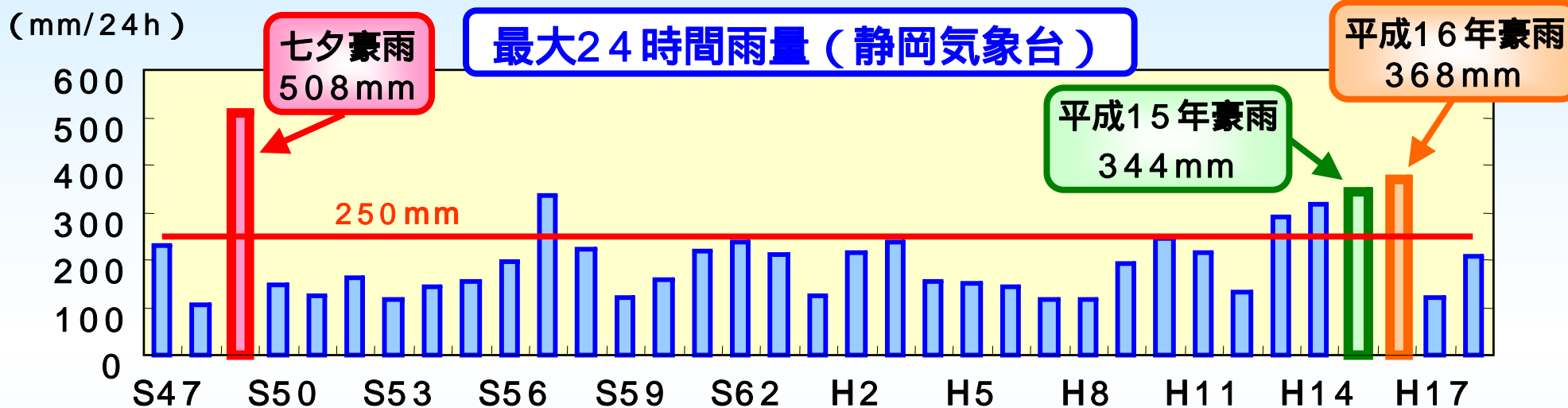
最大で毎秒約80 m<sup>3</sup>、延べ380万m<sup>3</sup>  
(東京ドーム3杯分)の洪水を分派

平成10年9月15日の台風5号と  
平成16年6月30日の豪雨の比較



静岡地方気象台雨量

巴川流域は平成15年、平成16年と立て続けに、短時間に強い雨が降り、都市型豪雨に見舞われました。







浸水被害の軽減のため、浸水原因などの実態を考慮し、治水安全度を向上させる対策（ハード面、ソフト面）が必要である。

課題を解決するためのキーワード

浸水被害軽減のため、河川施設の一層の整備

静岡市の河川・下水道との計画や整備における連携強化

流域一体となった流出抑制対策などの一層の推進

防災情報の提供、ハザードマップの周知などソフト対策の推進

（住民の防災意識の高揚・防災教育）

河道流下能力の確保・既存施設の適切な維持管理の継続